

**DATA：内科（血液内科）**

- 日本内科学会認定医制度教育病院、日本血液学会認定血液研修施設
- 主な対象疾患（血液疾患）：貧血、悪性リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫、特発性（免疫性）血小板減少性紫斑病など



◀診療科HP

血液疾患に特化した内科

当院内科は、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科などとともに内科疾患の治療全般を担当しています。受診者数も多く、診療の中核をなす診療科です。

内科が担当する疾患は多岐にわたるため、疾患ごとにそれぞれの専門医が治療に即した診療体制を築きあげています。そうしたなか、血液疾患を専門とする「血液内科」という分野があります。

担当する疾患は、悪性のものでは悪性リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫などで、良性のものでは再生不良性貧血、特発性（免疫性）血小板減少性紫斑病などがあります。当分野の主な入院の疾患は、血液のがん（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病）です。現在、この分野の担当医師は常勤2名、非常勤1名の体制で、週2回の外来、約20床の病棟の診療を行っています。

血液内科疾患の現状： 悪性リンパ腫

悪性リンパ腫は、リンパ球ががん化した疾患で、多くの場合、頸部、腋窩、単径部などに痛みのない腫脹があらわれ、全身症状として発熱、体重の減少などが認められます。この疑いがある場合、病理検査、PET検査などにより確定診断、ステージの判定などを行います。

現在、治療の中心となるのは薬物療法です。悪性リンパ腫に対する薬物は近年開発が進み、効果の高いものが次々に登場しています。そのため治療成績も向上し、疾患の初期であれば5年生存率は90%近くとなっています。また、全症例でも5年生存率は70%程度で、従来考えられていた予後の悪い疾患ではなく、治る疾患であるといえます。

ただし、より良い予後のためにも早期発見は重要です。早期発見にあたって、とくに注目したいのが

血液のがんは「薬で治る時代」に

関節リウマチを持つ患者さんです。関節リウマチ治療薬であるメトトレキサート投与中にリンパ腫を発症する頻度が高いことが報告されています。このため頸部や腋窩といったリンパ系の腫脹が見られた場合は、当科にご紹介頂き、検査を受けられることが早期発見につながります。

また、兆候が見られた際にメトトレキサートを中断するという方法もありますが、その前に検査を受けて頂きたいと思います。メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患は、メトトレキサートの投与を中止することで約30%は寛解するといわれていますが、病巣が縮小することでPET検査や生検を行うことができず、再発時の治療方針が立てにくくなってしまいます。

血液内科疾患の現状： 多発性骨髄腫

多発性骨髄腫は、骨髄腫細胞が骨髄内で増殖し、貧血、免疫力の低下、出血傾向、骨折など多様な症状が発現します。この治療も薬物療法が中心となります。近年、多くの新薬が開発され、高い効果を上げています。以前は治療後の平均生存期間は3～5年といわれていましたが、近年では6年～10年に延伸しました。



新薬の登場で、高齢者も治療が可能に

内科(血液内科)

血液内科疾患の現状： 急性骨髄性白血病

白血病に関しては、急性骨髄性白血病は急激な症状出現から進行が早いため、早期の診断と治療開始が必要です。治療の中心はやはり薬物療法ですが、悪性リンパ腫・多発性骨髄腫に比べると薬剤の開発が遅れており、治癒率も低く止まっています。しかし、血液疾患はサンプルの採取がしやすいため、薬の研究開発が進めやすい環境にあります。

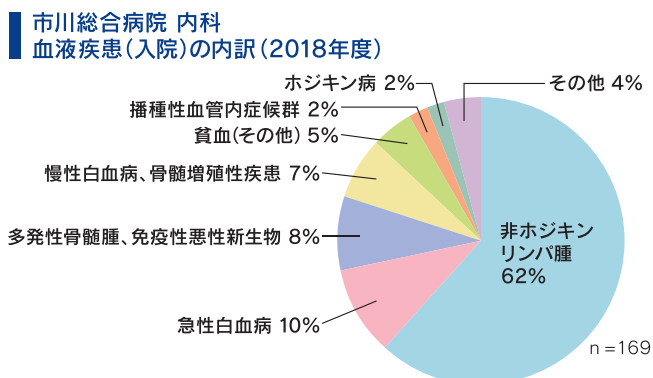
今後、新薬が登場することで治療成績が改善することが期待されます。

新薬の登場が治療を変える

こうした薬剤の進歩は、治療成績を向上させるだけでなく、従来は治療対象外とされてきた高齢者の患者さんへの治療も可能としました。従来の考え方では高齢の患者さんへの対応は積極的治療ではなく、緩和治療などが勧められてきましたが、今では薬物治療によって寛解し、日常生活に戻れる患者さんも多くなってきています。当科では薬剤の投与方法の研究を進めながら、「治せる人を断らない」という姿勢で治療を行っています。

様々な診療科との連携

以上のように、私たちは血液のがんをはじめとする多くの血液疾患を担当します。この血液疾患は、全身の多様な



場所に症状があらわれます。そのため様々な診療科から検査・治療の依頼を受けます。

悪性リンパ腫の項でお伝えしたリウマチとの関連や、骨髄腫による骨折のために整形外科から紹介されたり、消化器内科、産婦人科からも紹介されます。とくに歯科が充実している当院では、歯科診療中における口腔内の出血傾向から血液疾患を疑って紹介されることも少なくありません。

このように私たちは、様々な診療科との連携のもとに治療を進めています。こうした体制は院外の先生方との関係でも同様であると考えますので、診療科に関わらず、皆さまと緊密な関係を築き上げていきたいと考えています。

Dr's profile



Kimihito Matsumoto
松本 公宏 医師



出身

栃木県の足利市で幼少期を過ごしました。

趣味

ランニングと水泳です。2016年から体力づくりを目標にはじめ、東京マラソンも走りました。

スポーツ歴

中学生～大学生までバスケットボールをしていました。

医師になったきっかけ

祖母が膵臓がんにかかり、病気の怖さを思い知ったので、その治療に関わる仕事に就きたいと思い、医師になりました。抗がん剤をうまく使えるようになりたい、その思いで血液内科を専門にしました。

座右の銘

感謝をして生きる。常に心に思い続けています!

医療機関の先生方へ

市川総合病院 診療情報提供書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539(直通)

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時 土曜日：午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)